

～あなたはあなたの内側を知っていますか？～

子供や赤ちゃんは両親や接する人が発する言葉を理解する前に、その人達が内側から出している雰囲気を感じています。これは私たちが言葉によって何かを伝える事以上に、人間には言葉によらない内側からの雰囲気によって思いを相手に伝える事のできる機能が備わっているからです。そして私たちはその内側の雰囲気を感じ取って生活しています。私たちは、あの人は〇〇な人であると判断する時、言葉よりも内側をみて判断をしています。では周りの人々は自分を見て、どのような人物として見られているのかを考えていきたいと思えます。初対面の場合、私たちは相手の言動や雰囲気からその人を判断するために調査をします。トヨタの9代目社長だった張氏はクリスチャンでもありますが管理職を決定するのにユニークな方法で管理職を決めていました。それは約半年間かけて約2ヶ月おき同じ内容の質問をするということでした。それも内容は毎回違いますが、根の部分は同じ質問です。そして同じ答え、すなわち同じ考え方をしているのかを判断していました。それは管理職としてコロコロ変わってしまう人は不適格と見ていたからでした。その人の成績、能力で判断していたのではなく、その人がいつも変わらない内側を持っているのか人格の部分を見ていたのです。コロコロ考えを変える人はその時の感情で物事を判断しているということなので、それでは管理職は務まらないということで張氏はそのような判断基準で管理職を決定していました。このことから見受けられるように、私たちは「変わる」ということに非常に嫌がる国民です。しかし、今は外側を変えることで「変わる」という事に抵抗がなくなりました。今の政治をみてもわかるように首相が1年ごとに変わっても抵抗がなく、人が変われば支持率が上がるという傾向にあります。これは日本人が外側に目を向け外側を見て物事を判断しているということなのです。「変わる」事が悪い事ではないのです。問題なのは一時的な感情や見た目で大切な事まで判断してしまう事が問題なのです。時代がいくら変化しても本当に大切なものは変わりません。だからこそ私たちの見るべきものは内側にあるのです。決して変わる事のない聖書を知っている私たちは外側のパフォーマンスによって判断してはいけません。その人がどのような思いでやっているのか内側を見なければいけません。私たちは自分がどのような信念を持っているという事を言えるでしょうか。これが言えないと周りに流される人生になってしまいます。結果として周りからはコロコロ変わる人であると思われるかもしれません。最近はその持っている信念を失わせる風潮がありますが良い信念であれば、時代が変わるうとも理解してくれる人が生まれ、残っていきます。私たちはその信念によって物事を成していかなければいけません。何に対しても私たちの内面から出てくる思いが大切です。最近、大切なものを変えずに「いとおしむ」心がなくなってきたように感じます。本当に大切にしなければならぬものはしっかりと持っていた上で、変えるべきものを変えているでしょうか。私たちは自分の内側を知っているでしょうか。自分の内側にある信念も、問題点もしっかりと知り、変えるべきものを変え、変えてはならないものを変えないようにしていかなければなりません。今日の聖書箇所は私たちは「地の塩」（マタイ5：13～16）であるといっています。塩の特長は何でしょうか。塩はどの状態であっても塩なのです。水に溶けているように見えても、塩の粒子が細くなって水に結合しているだけ、塩は塩のままです。塩はどのように作られているでしょうか。多くは海水を蒸発させています。岩塩とよばれているものは以前はそこに海があった故です。水分が蒸発、気化すれば、塩の結晶が残っていきます。地の塩としての生き方とは、場所によっては塩の形態は変わります。しかし塩は塩のままです。塩としての役目を果たしなさいと言われていました。イエスキリストの公生涯を見ていく時、群衆の前、パリサイ人、律法学者、祭司の前では態度は違いましたが、一貫した信念から行動していました。私たちの内側にある信念に基づき、いる場所に合わせた行動をしているのであれば、時が経てば、私たちが塩であることを気づいてくれます。どのような状況になっても私たち自身が塩である事を忘れてはいけません。これを忘れてしまえばコロコロ変わる人になってしまいます。私たちの人生観の中に「塩」のように変わらないものを持っているでしょうか。私たちは何を基として変わらないものを持てばいいのでしょうか。聖書によれば神の性質として愛、贖罪、赦し、義、不変、などがあります。聖書における神こそ、常に変わる事のない不変な方です。今日は神性の中で、「正義」と「愛」と「赦す」ことに注目していきます。私たちは正しい義による価値判断をもって生活しているのでしょうか。神は父なる神とよばれています。神の性質こそ、この地上において家族の中で「父」としての役目を負っていく男性にとって大切な部分なのです。神は「ありてあるもの（出3：14）」です。そして変わらない方（ヘブル13：8）なのです。父はこのような役目を果たさなければなりません。この世においてリーダーとしての役目は父の役目と同じです。父の性質によって、子供の人格におおきな影響をもたらします。父としての責任は大きく、役目を果たさなければなりません。母の役目とはまったく違います。母はその人を包む愛です。私たちは人生の中であの人がみたいになりたいと言える人はいるでしょうか。その人は自分の理念がしっかりと生きていないのでしょうか。すなわちあの人が好きというのはその人の生き方（思想）が好きなのです。私たちが周りの人から同じように言われたいといけません。女性は男性にとってのあばら骨です。あばら骨は何を支えているのでしょうか。それは胃や腸ではなく、副腎や心臓などです。それはホルモンによるバランスを保っている所です。生きるための支えではなく、良い判断をしていくための支えなのです。聖書の愛に基づく正しい価値感で「父」として役目を果たす事ができるように支えなくてはなりません。私たちがしっかりとした価値判断をもっていかないと、周りに良い影響を与えられません。私たちを見て、学べるところがないというのは自分の信念を何も持っていない事になってしまいます。「こういうわけで、いつまでも残るものは信仰と希望と愛です。その中で一番すぐれているのは愛です。（1コリ13：13）」“残る”とは“とどまる”という意味です。いつもまでもとどまっているものは①信じる心を持ってはならないということなのです。いくら失敗しても裏切る人でも正しい人でも正しくない人であっても、父であり、父を支える役目を持っている人は信じる心を持ってはいけません。人を信じていくためには最初に私たち自身が信じられている事を知らなければなりません。神はアダムとエバが禁じられている実を食べた後でも悔い改める事を信じ続けて待ちました。アリストテレスの時代から始まる哲学は神の性質である全能性と絶対性の部分に対する研究からでした。哲学では解決できない領域は信じることでしか解決できません。信じる心が見えない未来に対して確信を持って歩んでいく事のできる方法です。なぜ信じる事ができるのでしょうか。それは神が私たちが信じているからです。その事を実感する事ができれば、周りに対して信じる事ができます。私たちに必要な事は私たち自身が信じられている事を知る事です。子供は親が支えてくれると信じているからこそ、高い所からでも飛び降りてきます。このように私たち自身も変わらないものを信じて歩んでいきましょう。②希望を失ってはいけません。私たちは描いた夢、与えられた志をあきらめてはいけません。夢に向かって私たちが歩む姿を通して、私たちの周りにいる人々が同じように夢に向かっていくようにならないといけません。信じる心は私たちの望んでいる事柄に対して確信させるものです（ペブル11：1）私たちの心に希望がなければいけません。私たちに夢はあるのでしょうか。その日暮らしでは夢を持って生活しているとはいえません。目標がないから“こなして”いるだけになります。目標があるからこそ、種を蒔きます。それは収穫する事を夢見ているからです。③愛を失ってはいけません。この愛とは聖書の中心であるアガペーの愛であり、相手のために何が出来るのかという愛です。自らの利益のために行ったからといって、収穫以上に何かを得られるでしょうか。人が生活するためにはある程度の収入を求めます。しかし本当に得たいと思っているものは人からの評価であり、名誉です。私たちは周りにいる人のために何かをしているのであれば、周りの人は良い評価をしてくれます。自分のためにやっているから、評価されたいと思ってしまうものです。私たちに与えられているものは周りに流すために目標を建て進んでいきましょう。私たちはイエスキリストが周りにいた人のために歩んでいた事を知っています。同じように私たちもそれに学びながら、心からできるようにしましょう。自分の十字架を負うという事は私たちの周りにいる人々の重荷を代わりに背負っていくことです。私たちが信じる心、希望、愛がとどまる歩みをしている事ができれば、父としての役割を果たして行く事ができます。人は失敗しますが、しかし、あきらめずに変わろうとする気持ちや態度が、周りの人を変えます。親子関係を見て行きますと、親が子供に気をつけて生きている風潮がありますが、しっかりと役目を果たしていれば、尊敬され、愛を持った関係になります。「自分のいのちを自分のものとした者はそれを失い、わたしのために自分のいのちを失った者は、それを自分のものとします。（マタイ10：39）」私たちは自分のために行う事をせず、相手のために行ったのであれば返ってきます。私たちの生涯がどのようであったのかは天に召されるときに分かります。私たちの内側から出てくる変わらない信じる心から良い生き様を見せられるように歩んでいきましょう。